

四軒並びの武家屋敷



上山藩の武家屋敷には、森本家、三輪家、山田家、旧曾我部家の4軒が軒を連ねています。

三輪家と旧曾我部家(いずれも上山市所有)は一般公開され、内部もご覧いただけます。森本家と山田家は子孫が居住する私邸のため、外観と庭のみご覧いただけます。

上山城(月岡城)が1535(天文4)年に築かれると、その西・北部一帯は武家屋敷となり、この仲丁通りには、藩の要職にあった家臣が居住していました。現存している家屋は、茅葺屋根、鉤型の曲屋で、玄関と通用口とを別にする武家中門造りの建築様式であり、4軒とも約200年前の建造と推定され、屋敷の周りには土堀または土塁が築かれていました。後に藤井松平氏時代に西山の谷川から八幡堂堰で引水して造られた庭園の池は風致を添えると共に、防火用水ともなっています。

武家屋敷「三輪家」「旧曾我部家」

利用案内

開館時間	開館 午前9時～午後4時45分
休館日	水曜日、12月28日～1月3日

入館料(三輪家)

一般	大人	210円	高等学校生徒以上 小学校児童、中学校生徒
	学生	160円	
	小人	50円	
団体	大人	160円	団体は20名以上
	学生	110円	
	小人	40円	

※旧曾我部家は入館無料です。※入館料は1人あたりの金額となります。

使用料

武家屋敷三輪家	1時間につき300円
武家屋敷旧曾我部家	1時間につき300円

※使用時間が1時間に満たない場合は1時間の使用料となります。
※入場料金を領収する場合は上記使用料の3倍、営利を目的とする場合は5倍の使用料となります。
※市外者の使用は上記使用料の2倍となります。

【武家屋敷を支える団体】

▶上山藩武家屋敷保存会

4軒の武家屋敷の保存管理及び広報活動を行っています。
<http://w01.tp1.jp/~a073735831/>

▶仲丁地区会

冬季を除く毎週日曜日の朝に武家屋敷通りの朝掃除と、季節の花をふれあい広場に植えて世話をしています。

▶紫苑庭

上山市の「女性の集い」の各団体が土日、祭日に、旧曾我部家の庭の紫苑庭で、観光客への湯茶接待を通して交流を深めています。

▶城下町再生志士隊

上山城周辺の景観整備を行うボランティア団体で、主にブロック塀を板塀化することにより城下町に相応しい景観整備に取り組んでいます。

<http://shishitai.com/>

▶武家何会議

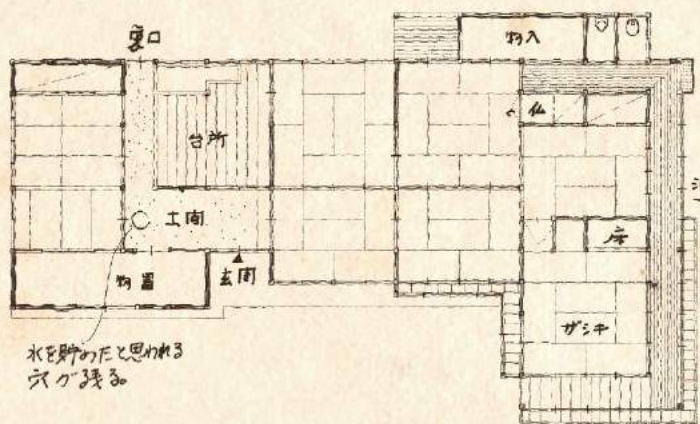
上山城の西側に軒を連ねる4軒の武家屋敷に関心のある人々が集い、武家屋敷での茶会やメンテナンス等、話し合いを重ねながら歴史的建造物を核とした地域活動を展開しています。

<http://ja-jp.facebook.com/bukenani>

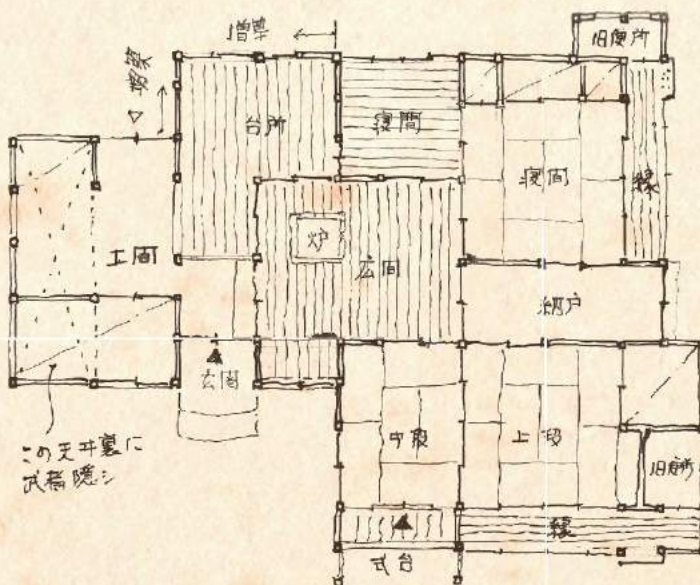
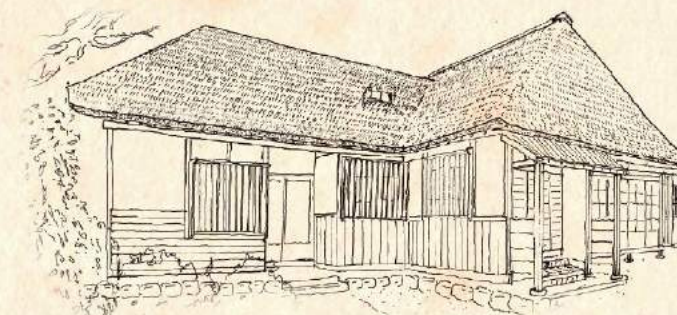
国土交通省東北地方整備局より、武家屋敷通り整備事業に対して平成17年度「手づくり郷土(ふるさと)賞」を受賞しました。紫苑庭の壁に銘板を掲示してあります。



「三輪家」平面図



「旧曾我部家」平面図



アクセス マップ



駐車場案内図(拡大図)



編集/武家屋敷で何かやっている人たち会議
発行/上山市教育委員会
TEL.023-672-1111(内線314)

旧曾我部家



三つ寄せ笠
(みつよせがさ)

上山における曾我部家の初代は宗八と称し、1708(宝永5)年藤井松平氏七代信道(のぶみち)の家臣となり、宗旨(しゅうし)奉行や馬廻(うまわり)役を勤め、家禄50石、後に100石を給された。

二代勇八は70石で徒頭(かちがしら)を勤め、三代右介(うすけ)は1783(天明3)年大目付となり85石に昇進、代々要職に就いている。

曾我部家は、初代からこの地に居住し、当時の敷地は約2,000平方メートルで、そのほかに城内にも土地を有していたという。

間取りは一部改造されているが、玄関の間の上手の槍掛場・刀置場・上段などは、いかにも武家の居宅らしいものがあり、勝手口側4メートル程の所にある「釣瓶(つるべ)井戸」は近年まで使われていたものである。

特にこの建物の表玄関は武家中門造りで、中級武家屋敷の様式をよく表わし、屋敷には柿が植えられ、庭園には築池を配し、榎(かし)・松・桜・梅擬(うめもどき)や躑躅(つつじ)などもあり、黒竹や桧(ひ)葉(ば)の生垣を廻(めぐ)らし、風情を添えている。

▶ 宗旨奉行【しゅうしぶぎょう】

キリスト教禁止の「踏み絵」などを執り行う役割。

▶ 徒頭【かちがしら】

徒歩で戦う下級武士約20人の頭を徒頭という。



山田家



違い鷹の羽
(ちがいたかのはね)

山田家の先祖は、常陸国(ひたちのくに)茨城郡笠間の出自で、1697(元禄10)年頃には藤井松平氏の家臣として、現在の屋敷に居住していたことが分かるが、1753(宝暦3)年4月から上山に定住した恒右衛門を初代としている。

山田家は、代々惣領席(そうりょうせき)・馬廻席(うまわりせき)のほか、寺社・町・郡・勘定等の各奉行、者頭(ものがしら)・大目付を勤め、家禄50石を給され、特に藩主の御側(おそば)勤めや随伴役が多く、江戸と大坂、あるいは上山と転勤し、国元との間を頻繁に行来している。

五代の源次郎は、1863(文久3)年に弓道日置(へき)流射術師範となり、幕末の1865(慶応元)年には教導方、藩校明新館の都講(とこう)にも昇進している。

戊辰戦争にも出役し、藩政改革のときには官制上山藩民務局の勘農司事(かんのうしじ)を勤めた。

屋敷には松の大樹が有ったことから、この本邸を「松陰亭(しょういんてい)」と愛称し、庭園には高野槇や躑躅(つつじ)・百日紅(さるすべり)なども有って風情を添え、武家屋敷としての面影を遺している。

▶ 者頭【ものがしら】

武家時代、弓組・鉄砲組などの足軽の頭。組頭。足軽頭。

▶ 勘農司事【かんのうしじ】

農政を司る役人。



三輪家



抱き茗荷
(だきみょうが)

三輪家の初代飯田(はんだ)小助(初名)は、豊前国(ぶぜんのに)中津藩奥平氏に仕えていた飯田一翁の次男で、1796(寛政8)年に藤井松平氏十一代信古(のぶふる)の家臣となり、初めて三輪氏を名乗り三年後に家禄100石10人扶持(ぶち)を給され、名も十郎左衛門重胤(しげたね)と改め、江戸藩邸上屋敷に勤務、後に側用人(そばようじん)準参政となった。

二代重孝は1868(明治元)年に他界するまで信行・信宝(のぶたか)・信庸(のぶつね)の三代藩主につかえ、1844(弘化元)年には側用人と勝手方を兼ね、後に参政となり藩政に直接参画した重鎮である。

側用人という役目柄、藩主の随伴役で上山と江戸、あるいは大坂と慌ただしい勤務となり、上山に定住したのは1852(嘉永5)年十月であるが、翌年には惣領席(そうりょうせき)に任ぜられ、藩校明新館の教師として勤務をしている。

庭園には北面に築池を配し、松や樅(もみ)の木に躑躅(つつじ)などもあって武家屋敷の風情を添え、往昔(おうせき)の佇(たたず)まいを偲(しの)ばせている。

▶ 側用人【そばようじん】

藩政を統括したのが家老なら、藩主の家の家政を取仕切ったり、秘書的な役割を担った。

▶ 惣領席【そうりょうせき】

本来は後継ぎと言う言葉だが、現代では取締役とでも言う役目。すなわち「上山藩の管理職」に相当する。



森本家



剣花葵
(けんはなびし)

森本家の先祖は丹波国(たんばのに)多紀郡(たきぐん)大雲郷の出身で、初代森本七郎兵衛秀孝は、同国の篠山(ささやま)城主であった藤井松平氏四代忠国の家臣となった。

1697(元禄10)年、松平氏七代信道(のぶみち)が、備中国(びっちゅうのに)庭瀬から上山藩主として入部した時は、森本氏三代秀盛の時代である。

森本氏は、代々藩主の随伴役が多く、江戸・上山・大坂と転勤し、上山に定住したのは1706(宝永3)年の春であり、現在の屋敷に引っ越したのは文久年間(1861~63)以降といわれ、一部模様替えはあるものの、先住者から引き継いで居住している。

九代秀妙(ひでとう)は長柄(ながえ)奉行で、御側(おそば)目付をも兼ね家禄70石を給され、十一代秀晋(ひでくに)は藩校明新館の教師や藩主の訓育掛(くんいくがかり)を勤めるなど、漢学の造詣(ぞうけい)も深く、文筆にも長じていた。

秀晋はこの本邸を「錦繡亭(きんしゅうてい)」と愛称し、庭園を「黄華園(こうかえん)」と命名し、早春の黄花を好んで鑑賞したと伝えられ、今にその面影を遺している。

▶ 随伴役【ずいはんやく】

参勤交代で移動することが多く、藩主に伴って移動する秘書的な役目。

▶ 長柄奉行【ながえぶぎょう】

槍を持つ一隊を率いる奉行。

